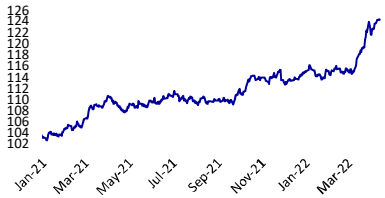
Mizuho Weekly Market Report

4/11/2022
みずほ銀行東アジア資金部台北室

市場動向

■USD/TWD

■USD/JPY



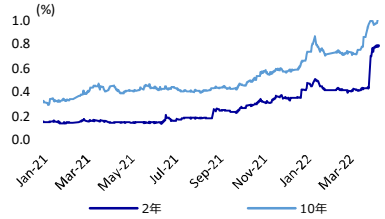
■JPY/TWD

■EUR/USD

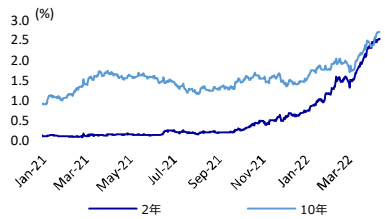
■USD/CNH

■台湾加権指数

■台湾国債利回り



■米国債利回り



先週の市場動向

■USD/TWD

先週のドル/台湾ドルは上昇。米金利の上昇に伴うドル高の流れを受け、連休明けの4/6は28.750でオープン後、28.81台まで上昇。その後も外国人投資家が台湾株を売り越したことから下値は堅く推移した。4/7も米金利が上昇する中ドルが全面高となり、28.86付近まで上昇したが、28.85を超えると種出企業のドル売りも見られ、上値は押さえられた。4/8も海外への資金流出の流れは変わらず、約1年半ぶりに28.922まで上昇。最終的に先週比0.7%ドル高台湾ドル安の28.906で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は830.1億台湾ドル。

■USD/JPY

先週のドル/円は上昇。週初4/4は122.67でオープン後、一時122.28まで下落するも一巡後はウクライナ情勢の悪化や米金利の上昇にサポートされ122円台後半まで戻した。4/5は黒田総裁による円安けん制発言により122円台前半まで下落するも、ブレイナードFRB理事が「バランスシートを５月にも急速なペースで縮小へ」、そしてジョージ・カンザスシティ連銀総裁からもタカ派色の強い発言が伝わったことから米長期金利の上昇とともにドル買いが強まり、123円を上抜け、123円台半ばまで上昇。4/6は前日の流れを引き継ぎ米金利が上昇する中、124円台まで上昇したが、一巡後は123円台後半で底堅く推移。その後、3月のFOMC議事録が公表されると「多くのメンバーが１回以上の50bp利上げが正当化されたと指摘」、「資産縮小の限度は月950億ドルが適切となりそう」と金融引き締めへの方向性が改めて確認された。発表直後は、ドル円は売られる場面もあったが、想定内の内容であったため、すぐに値を戻し123円台半ばで推移。4/7は特段材料のない中、123円台半ばでの推移が続いたが、米金利が上昇すると124円ちょうどをつけた。4/8も特段の材料はなかったものの、米10年債利回りが約3年ぶりの水準となる2.72%をつけたことからドル買いが強まり、一時124.67まで上昇。最終的に先週比1.4%ドル高円安の124.28で先週の取引を終了。

今週の見通し

■USD/TWD　予想レンジ：28.800-29.100

足許の米金利の上昇は続いており、台湾ドルが売られやすい環境は続くであろう。今週は米3月CPIの発表も控えており、米金利の上昇から台湾ドル売りが加速する可能性もある。節目の29台を試す展開となるであろう。

■USD/JPY　予想レンジ：123.50-125.50

先週はFRB高官からのタカ派発言もあり、米金利の上昇とドル高が続いたが、今週は米CPIの発表を控えている。利上げをサポートする材料となれば、さらなる米金利の上昇とドル高に警戒したい。

今週の予定

4/11 (MON)	
4/12 (TUE)	米3月CPI
4/13 (WED)	米3月PPI
4/14 (THU)	米3月小売売上高、米4月ミシガン大消費者信頼感指数、ECB理事会
4/15 (FRI)	米3月鉱工業生産

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようにお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。